

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念「その人らしくあるがままに」に沿った入居者への支援を行っている。入居者の趣味・趣向をうかがい地域の市民センターを中心に活動に参加させていただいたりしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の届くところに掲示し、常に意識して取り組むようにしている。また、ミーティングなどで確認している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時や見学時に配布して説明を行い、各フロアの目につく所に理念を掲示している。また2ヶ月に1度の運営推進会議での説明や、毎月発行している「華里だより」にも記載し、理解して頂ける様取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より近所の方には元気に挨拶をしたり声を掛け合う等、日常的な付き合いができる様努めている。また、行事等あればポスターを掲示したり声を掛けて参加していただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム主催で行っている餅つき大会には地域の方に声を掛けさせて頂き、参加して頂いている。消防訓練においては、地域の方や入居者、職員が一体となって避難訓練が出来た。ふれあい昼食会や金山川祭り、小学校の八枝フェスタにも毎回参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	華里おひさま園主催の外部講師を招いての勉強会(権利擁護・成年後見制度・認知症ケアについて・介助法・医療面について等)を行っており、地域の方々やご家族へも呼びかけし参加して頂ける様に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することにより自らの取り組みを見直し、サービスの向上につなげている。 外部評価の結果を受け止めてサービスの質の向上を目指し改善していくためにミーティング時に話し合い、改善点を自ら気付くことが出来る様な視野を持てるよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度設定しており入居者にも参加していただいている。 状況の報告や取り組みを説明することにより意見や助言を頂いている。市民センターでの行事やクラブ活動、おひさま園での行事等情報交換を行っている。議事録などは、ご家族やスタッフがいつでも見られるよう設置している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談事業の相談員の派遣を取り入れており、月に1回相談員の方に来て頂いている。 また、地域包括支援センターの方に見学に来ていただいたり、今後市町村の方が研修の講師として来てくださる計画もある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	2ヶ月に一度、成年後見制度について外部から講師を招き勉強している。その際、職員だけでなく地域の方や入居者のご家族の方にも声を掛けて参加して頂いている。 また、外部の研修にも参加している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い虐待の内容を理解すると共に、様々な事例をもとに適切なケアを行える様取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に、入居者やご家族に理解・納得して頂けるよう説明を行っている。理解されにくい部分についてはその都度確認を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス相談事業の相談員の派遣を取り入れており、入居者のグループホームでの不満などをサービス相談員を通して聞き出し、改善していくことで信頼関係の構築と温かい雰囲気作りに努めている。相談員の来園日はご家族にも事前にお知らせし、活用いただけるようにしている。相談があった時はそれに対して誠実に回答している。苦情・相談窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常生活の様子については、面会時や電話、お手紙にて報告している。また、健康状況については、リアルタイムに報告している。 職員の異動については、華里だよりや面会時に説明をしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見・要望に対しては、介護サービス相談事業の相談員を通じ、機会を設けている。意見箱の設置やアンケートを実施し改善出来る様に取り組んでいる。 また、個別に面談できる機会も設け、お話を聞けるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者より定期的な面談を実施している。 意見や提案を聞き、反映できる事は取り入れている。		管理者は、職員が意見や提案をしやすい環境作りを日頃から行い、その都度運営者に報告できる様努めていく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	医療受診や行事、ADLの変化にともなって職員の数が必要な場合には管理者から運営者に報告し、必要な職員を確保している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動が生じることもあるが、入居者の負担が少ない様に精神的なケアを十分行っている。 離職の場合は新人と離職者を重なるように配置し、申し送りを十分できるようにしている。		離職を最小限に防ぎ、入居者とも馴染みの関係を保てるような環境作りを目指す。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別に関係なく必要な人材であれば採用している。また職員の経験やレベルに合った研修への参加、責任感や達成感を持ってもらう為、役割分担をしている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や施設内研修を通じ、職員教育に取り組んでいる。また、個別面談時に指導を行っている。研修や勉強会を通して人権に対する意識向上を図るとともに、自己学習を促し、日々取り組んでいる。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やレベルに応じて研修参加している。適切な助言や指導が出来る職員を配置する事で知識や技術、考え方の向上に努めている。内部研修も積極的に行っている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が同業者との交流が図れる様にネットワーク作りに努めている。もう一つのグループホームの運営推進会議に参加したりもしている。 研修等で他の施設との交流を図り、勉強会や相互訪問等の活動ができる様な関係を築きサービスの向上へとつなげている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の状態把握に努めている。 定期適・必要に応じて面談を行い、職員の意見や考えを聞いている。 体調に応じ、勤務調整も行っている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の業務についての情報収集を行い常に職員に声かけを行ったり気遣いを示している。 職員の意思確認をし、希望する研修には参加できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人から生活に困っている等の聞き取りを行っている。ご本人とご家族に話の内容の食い違いがあるが、ご本人の思いを受け止めるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居に至るまでに、ご家族の直面している事や困っている事を傾聴し、ご家族の苦労や不安な事を受け止める事が出来る様に努力している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談に来られた際は、相談内容に応じて介護保健施設の説明や有効と思われる施設の説明を運営者や管理者、施設の社会福祉士が行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居できるようにしている。また入居前に少しずつ慣らししていくためショートステイをお勧めしたりもしている。入居に際してご家族からの情報をもとにご本人の不安や転居によるダメージを最小限に出来るように努める。場合によっては、ご家族に居室に宿泊していただく事もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が職員に対して指導して下さり、学ぶことが沢山ある。人生を積み重ねられた先輩として経験や心情をお聞きしたり一緒に過ごすことにより学んだり支え合える関係を築いている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の手助けを行って下さるご家族には職員は交代せず行っていただいている。日常生活の情報を提供し、ご本人の生活状況をご家族に知って頂いている。行事への参加やフロア清掃、洗濯物たたみ等積極的に行ってくださっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との会話の中で、ご本人の情報やご本人を取り巻く人の話を収集している。入居者との会話の中でご家族の話を意図的にしており、ご本人が家族のことを思う時間が増えご家族と関係構築に繋がっていると感じる。また、外泊や面会なども自由に交流できるように支援している。思い出作りの為にもご家族と一緒に過ごせる様、出掛け場(個別支援)を今後も提供していく。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話をする事で馴染みの場所を忘れてしまわぬよう取り組んでいる。また会話の中で出てきた場所や希望等へも可能な限り外出している。 ご自宅への外泊支援も行っている。(送迎・相談)		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の相性や性格を考慮し、入居者が孤立せず仲良く楽しく過ごしていただける様に努めている。 認知症の方は他者との兼ね合いが難しく、周りで過ごす人によりその方の気分や状態が変化することもある為、入居者同士の関係を十分観察し、良い関係が保てるよう配慮している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設への入居や、退居後の継続的な関わりの必要な事例はないが、ご家族より連絡を頂くことはあり、必要があれば関わりを持ちたいと考えている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご本人からの情報やご本人の表情や仕草をしっかりと観察することで好き・嫌いなどの本人本位の視点で見ようように努力して、暮らしの中にとり入れるようにしている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などは本人との会話やご家族からの情報収集にて行っているが会話の中で知った情報は介護記録に記録として残し、周知できるようにしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方は、ご本人の希望や生活習慣を尊重している。毎日ご本人の状態をモニタリングし、状態把握に努めている。生活動作を通して有する力を把握する為に、状態を判断する場合は意図的に必要以上の介助をせずご本人の力や状態を観察する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題とケアのあり方については、ご家族の意見を求めている。ご本人がより良く暮らすためにも、月1回のミーティング時に意見を出し合い、サービス担当者会議では本人・家族・必要な関係者の意見を求め検討し、ケアプランを作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じてモニタリングを行い、介護計画の期間内であっても入居者の状況変化により身体的・精神的状態が大きく変化し、現行の介護計画が機能していないことがあれば担当者会議を行い介護計画の見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入している。気付いた事や行った事、ご本人の様子や日常生活の変化、ご本人の言葉、表情を記録し情報交換の場として生かしている。介護計画作成時には介護記録を見直し、見落としや新たなニーズがないか確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	H20年4月～短期入所を行っている。デイサービスや医療機関との連携によりマッサージや身体的な相談、日常生活での楽しみ(音楽セラピーやおやつ作り、華道)等を取り入れている。入居者が困る事なく、より楽しく快適な生活が送れるように、持っている機能を有効活用していきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署には年に2回防災訓練に協力していただいている。教育機関からは実習生や研修生、職場体験学習などの受け入れを行っている。行事には地域のボランティアや中学校のボランティアクラブの訪問を受け入れている。また、消防署に依頼して職員や家族向けに普通救命講習を行った。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議の時に、地域包括支援センターの方や地域の公民館の館長などから地域主催の在宅高齢者向けのサービスについて情報を得て、積極的に利用している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して必要に応じたケアマネジメントなど、相談や情報交換を行い協力している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の納得が得られたかかりつけ医と日常的に情報交換し24時間相談できる体制がある。以前から受診していた病院などがあれば継続して通院して頂き他医療機関との連携も図っている。入居者・ご家族様の希望に沿った支援を行う。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に相談し、必要に応じて専門医を受診している。 状態が安定すればかかりつけ医が診察し、病診連携によりご本人の負担の軽減に努めている。受診の際は、ご本人の日常の状態を正確に伝え適切な診断・治療を受けられる様支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	身体状態などについて、日中はすぐに相談できる看護師がいる為、必要に応じ医師や看護師に相談している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された時は多く面会に行き、馴染みの顔を見せる事で安心して頂ける様にしている、と同時に病院関係者との情報交換やご家族との連携を密に取っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化している段階から、ご家族・医師・看護師・グループホーム職員等で今後の方針を話し合い、終末期をどう迎えるのかの検討を行った。終末期の治療としてどこまで治療を行うのか等相談し方針を共有した。また、定期的に終末期の意向書の提出をしていただいている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎月のミーティングで話し合いや職員同士の情報収集も密に行っている。また、残存能力を見極め支援できるよう、小さな変化にも気付けるようにしている。看取りをご本人や家族に安心して過ごしていただけるように研修に参加している。看取りに関する事例等の収集、勉強会も行っていきたい。医師・看護師との連携をとっている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の所に移られる時は、こまめな情報提供を行っている。入居者が移り住んで混乱しない様に関係者間で協力し合っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務を徹底している。プライバシーを損なわない様、職員は言葉遣いに十分配慮している。 職員一人ひとりに個人情報について周知してもらい、書面でも誓約書を書いてもらっている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者の意思を尊重し、理解力や認知力に合わせた声掛けや、出来る限り自己決定できるような働きかけをこころがけている。		入居者本人の自己決定をしやすい雰囲気作りを行うためにも職員の知識や技術も必要不可欠な為職員の技術も高めていく。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の流れを優先せず「～したい」などの希望は取り入れ、ご本人のペースに合わせている。希望を叶えられる様、飲酒や喫煙についても個別に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回最終月曜日に理容師に来て頂いている。ご希望の入居者の方には美容室へ行かれています。 ご本人の好まれる装飾品を使用している。入居者本人の希望を取り入れ、おしゃれを楽しめる様に理容師や美容師とも情報交換していく。また、化粧の取り入れもしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物を聞いたり、職員同士でどんなものが喜ばれるか話し合い、献立表に反映している。野菜切りや食器拭きは出来る範囲で行って頂いている。食事を楽しく美味しく食べていただけるように一人ひとりの食事形態に合わせ、ご本人の力で食べていただけるよう対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の希望があればご家族やかかりつけ医と検討し、特に症状等に問題がなければ嗜好品の提供を行っている。ご家族も、ご本人の好物を持参されている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握・一人ひとりに合わせたトイレ誘導を積極的に取り入れている。また毎月のミーティング時に職員で意見を出し合い改善に努めている。気持ちよく排泄していただけるよう、食事や水分摂取等にも気を配っている。ご本人の不快感や皮膚への負担、軽減に努める。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の好まれる時間や湯温に合わせ入浴していただいている。室温・物音・照明等にも注意し、気持ち良く安心して入浴を楽しんでいただける様、入浴前の体調確認も行っている。また入浴後は希望される飲み物(冷茶・温茶・ポカリスエット・牛乳等)の提供も行っている。それぞれの方々の都合や希望(デイサービス利用・受診・外泊)に合わせ日程調整し、入浴していただいている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できる様な配慮、室温や物音・照明等に注意している。日中も入居者の希望や体調に合わせて休息していただいている。不眠の方についてはその時々状況に合わせて対応し、落ち着いて入眠していただける様にしている。安眠していただく為にも体内リズムを整え、その時々状況に対応できる様、職員同士で情報交換を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・力に合わせ、入居者様と職員が一緒に行う事により日々の生活から役割ができ、生活を楽しんでいただけるよう取り組んでいる。天気の良い日には日光浴も兼ねて中庭で遊ぶ園児との触れ合いを楽しまれている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に合わせて、買物時にはお金を使う事への支援を行っている。ご本人の希望に応じ、物品や食品の購入を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に外出の機会を提供している。ご本人の希望があれば随時外に出るよう努めている。気分転換や季節感を楽しんで頂くためにも買い物やドライブ等、希望を引き出しながら行い、入居者のストレスを軽減できる様取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別支援に力を入れて取り組んでいる。計画時にご家族へも声をかけさせて頂き、可能であれば一緒に参加されている。(例：昔住んでいた家を訪問)		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたという希望がある方は電話を使えるようにしている。 「華里だより」をご家族へ郵送する際にご本人自ら書いた手紙を同封することもある。また、普段書かれない方にも年賀状などの季節のおたよりを出せるよう声かけなどして支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が来られた時にはお茶を提供したり周りの人に気を遣う方であれば居室で面会して頂いたりしている。管理者が近況報告する事により入居者との話題が豊富になっている様に思える。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていない。身体拘束をしないために見守りを強化したり一緒に過ごす安心できる環境作りや落ち着かない原因を回避する等で対処している。マニュアルはいつでも見られる所に設置し、危険防止のために必要となった時の為の説明・同意書は準備している。「介護保険指定基準における禁止事項の対象となる具体的な行為」を全職員が周知するように勉強会をしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、フロア玄関も夜間以外は鍵をしていない。夜間は防犯のため、玄関に鍵を使用している。いつでも出入りができる、自宅にいる様な環境作りを心掛けている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の日常生活の見守りを行い安全に配慮している。常に目配りや様子観察を行い、記録に残している。夜間は定期的に巡視をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や消毒剤などは危険なため、職員が管理している。普通に使えば危険のないものはご本人の状態に合わせ、一律にはなくしていない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成している。(新人研修の一環としている) 事故が起きたらヒヤリハットの記入、職員全員で把握し検討している。事故検討委員会により職員の意識向上につながり、再発防止に努めている。事故が起こらないように日常生活を見守り、リスクがあれば職員会議を開き検討している。もし事故が起こった場合は同じ事を繰り返さないために事故検討委員会を開催し対策を検討している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。 シミュレーション・実技研修の実施(夜間帯の転倒時の応急手当の方法など) AEDの設置 緊急時の対応が的確に行われる様に緊急時の対応について専門職などによる勉強会や研修を定期的に行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行っている。訓練時に地域住民に避難訓練のお知らせ・参加をお願いしている。 避難経路・場所・役割分担表・連絡先などを掲示している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒・誤えんなどその方に起こり得るリスクは家族に説明し、職員もそのリスクに対してでき得る十分な対応ができるよう家族とともに検討し、最小限に押さえられるよう取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをしている。 バイタルや体調、様子が日常と違ったり、異常があれば職員やかかりつけ医院の医療スタッフに連絡し医師の指示を得ている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師からの説明を受け、スタッフで再確認している。 飲み忘れや誤薬を防止する為にも薬のケースに薬の名前と効果を掲示している。お薬の説明書を活用している。一人ひとりが使用されている薬を把握し、また効果や副作用についても理解する様努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼らず水分補給や食物繊維の豊富な食材のメニューを中心に食事を提供し、適度な運動(歩行訓練・リハビリ体操など)を心掛け、便秘防止を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを行っている。出来る限り自力で行っていただき不足部分のみスタッフが介助している。訪問歯科での口腔内のお手入れや口腔状態に異常や疑問がある時は併設のデイサービスセンターの歯科衛生士の協力を得たり訪問歯科を受け、一人ひとりに合ったケアを提供していく。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食事摂取量を考慮し、毎月の献立については、併設のデイサービスセンターの管理栄養士に相談し、栄養バランスの面での指導をいただいている。食事摂取量のチェックを行い食事摂取量が著しく低下しないように注意している。栄養や水分が不足しない様に努める。また、一人ひとりの食事形態に合わせ(ミキサー食や刻み食等)摂取していただける様取り組んでいく。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、入居者・スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を行っている。行政からの感染症についての書類や通知はスタッフで回覧し感染症予防に対する意義を高めるように努めている。その時期に合わせ加湿器の設置や手洗い、うがい、換気等を心がけ、予防に努めている。また、毎年研修も行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを購入し、製造元もチェックしている。また食材は早めに使い切り、冷蔵庫内も定期的にチェックしている。炊事場や調理器具はこまめに消毒・乾燥を行っている。衛生管理にも十分に気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに木を植えたり花壇に花を植えたりしている。玄関やエレベーター等に四季折々の物を飾ったり、親しみやすく安心して出入りできる様工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明、匂いを調整し、入居者にとって快適な環境となるよう努めている。時には、心地よい音楽(クラシック)を流すことで落ち着ける空間作りに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は視覚的に2つに分かれるようになっている。また、ソファなどを利用し、気分や体調に合わせ気の合った者同士思い思いに過ごしていただいている。一人ひとりの性格や思いを考慮し、居心地の良い空間作りを心掛けている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に説明し、本人が使い慣れた物や好みの物を居室に置き、住み慣れた環境作りをしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いには十分注意し、随時換気を行っている。 必要に応じ、芳香剤を使用している。 温度は冷・暖房共に目安温度を設置し、冷えすぎたり暖かすぎたりしない様に注意している。		入居者はフロアにて過ごされる事が多く、職員の感覚では体調を崩してしまう為、入居者の状態観察を行い、温度管理を行っていく。 入居者の訴え時にもこまめに対応している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間は全てバリアフリーとなっており、必要に応じて手すりを設置している。入居者が安全・安楽に生活しやすい様に、また出来るだけご自分の力で行えるように機能を活用している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室をわかりやすくするために表示を大きくしたり写真をはったりしている。カレンダーを指示し、日にちの感覚や季節をわかりやすくできるよう工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にある畑での野菜作りや花火大会、ベランダからは景色を眺めたり、中庭で遊ぶ園児の笑顔を見るなどして、楽しんでいただいている。天気の良い日にはベランダで日光浴をしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない